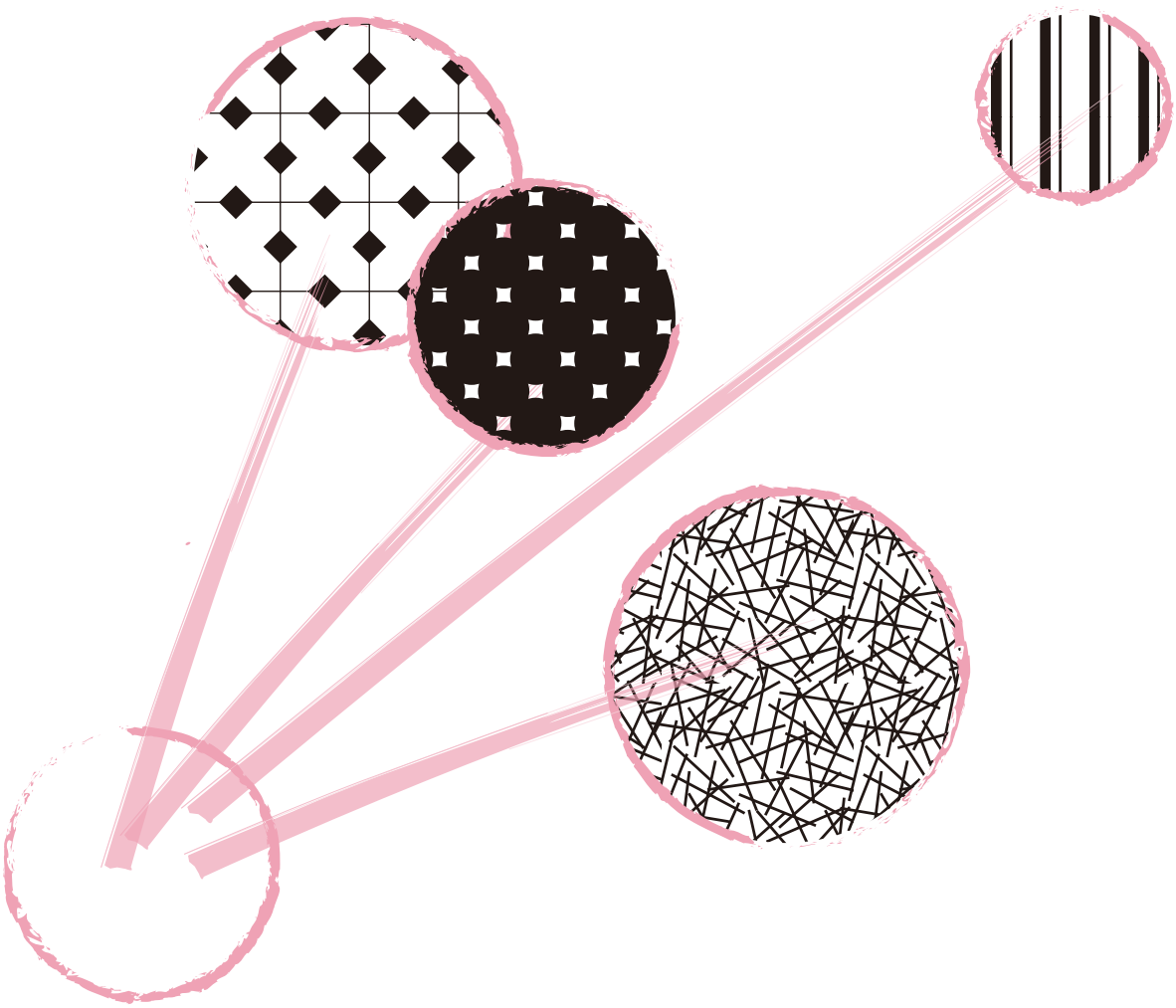
第 15 回日本在宅医学会大会

ランチョンセミナー⑨



何処で最後を迎えるのかを選べる時代に

ー多死社会に向けての取組みー

演　　者

医療法人社団 ナラティブホーム 理事長
ものがたり診療所 所長

佐 藤　伸彦 先生

座　　長

東京大学大学院人文社会系研究科
死生学・応用倫理センター
上廣講座 特任准教授

会 田　薫子 先生

2013

3月31日（日）

12：10～13：10

ひめぎんホール　サブホール

共催：第 15 回日本在宅医学会大会 ／ ㈱クリニコ

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	ランチョンセミナー
共　　催	株式会社クリニコ
タ イ ト ル	何処で最期を迎えるのかを選べる時代に-多死社会に向けての取り組み-
日　　時	平成 25 年 3 月 31 日 12:10～13:10
会　　場	サブホール
演　　者	医療法人社団ナラティブホー ム 理事長・佐藤 伸彦先生
座　　長	東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣講座 特任准教授・会田 薫子先生
企 画 趣 旨	今のように９割近くが病院で亡くなる社会では高齢者爆発による多死社会は乗り切る事が出来ないでしょう。「何処で死ぬのかを選べる時代」にしなくてはなりません。今は選択肢がほとんどないのです。家族介護力の不足や療養する部屋という住宅問題、老老夫婦介護や独居、最近では老老親子介護という問題もあり、在宅での最期がすべて美化され良いものという方向性にも問題があります。 そして何より、治す事を目的とした「医学」だけではなく「死」というものを視野に入れた社会的実践行為としての「医療」が必要になってきます。その中で、在宅医療、さらには病院・施設でも在宅でもない第３の場所を作ろうと思って活動を始めナラティブホームというシステム医療を設立しました。ナラティブとは「ものがたり」という意味です。その人の生きてきた人生を少しでも理解し、寄り添うことを理念にあげています。病気というものはその人の一側面を見ているだけです。長い人生の中で私たちはいろいろな事情を抱え、自分なりの価値観をもって生きています。病気という一面だけで終末期ケアはできません。治療か緩和か、医療か物語か、そんな二項対立ではなく、その間での落としどころを探す（二項バランスと呼んでいます）、それが私たちの目指すものです。本来のインフォームドコンセントであると思っています。 具体的な事は当日お話をさせていただきますが、「ものがたりの郷」という１５室の賃貸住宅を中心に地域ケアと包括ケアをチームとして提供しています。認知症のがん患者も多くなっていますし、がんに限らない多くの疾患の終末期が増えています。認知症の末期、脳血管障害の後遺症の末期、腎不全の末期、心不全の末期等等で、それらが複数組み合わさっているのも高齢者終末期の特徴です。昨年度１年間での看取り数は６０名、看取り率は９０％です。 「看取り」をキーワードに地域医療を推進し、地域の方の力（地域力）と多職種の関わり合いがいつかこの地域の一つの文化となればよいと日々活動しています。